

令和元年度 第2回 新潟市男女共同参画推進センター運営委員会 議事概要

日 時： 令和元年11月11日（月） 午前10時～正午
場 所： 新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」 308研修室
出席者： 新潟市男女共同参画推進センター運営委員
齋木委員、西條委員、齋藤委員、指田委員、永田委員、福田委員
事務局（男女共同参画課）
稲垣課長、新井課長補佐、小林主査、井上副主査、大塚職員

1 開会

2 男女共同参画課長あいさつ

3 報告

(1) 令和元年度事業報告（4月～10月開催事業）

(事務局) 各担当より主催事業の報告

(齋木委員) 再就職支援講座は大変満足度が高い講座だが、2回目は欠席が4名ということで、人数が減った理由をはっきりしているのか。

(新井補佐) はっきり理由は聞いていないが、ママのための講座だったので、お子さんの具合が悪くなったりしたのではないかと考えている。

(西條委員) 再就職支援講座はどういう仕事の探し方の講義だったのか。

(井上副主査) まず、自分が楽しいこと、自分にできること、自分が大事にしていること、譲れないことは何かを考えてもらった。次にこの3つの共通点は何かを改めて考えてもらい、それが自分に合う仕事ではということで探してもらった。それから、キャリアデザインシートを使い、自分の10年後、5年後はどうありたいのか、そのために今は何をしなければいけないのか、遡って今を考えるとということでキャリアについて考えた。

(西條委員) 最終的にはどういう落とし込みになったのか。

(井上副主査) 遡って今すべきことは何だろうと考え、グループワークの中で共有し、お互いメッセージを伝え意識を高める場とした。

(西條委員) その後ハローワークに行くなど、行動につなげるための講座だと思うが、実際に再就職するためのサポートの仕組みなど制度上の紹介もあったのか。

(井上副主査) 順を追って就職活動ができるよう、マザーズハローワークの紹介を最後にした。

(西條委員) 書いていないとわからないので、そのことも書いてほしい。

(福田委員) 男性の生き方講座（子育て期）は、マイナスの感想はあまりなく、いい講座だったのだと思うが、12組しか参加がない。男性をアルザに誘うのはとても難しく、男女共同参画というと女性が来る。いい講座なのにもったいない。父親をどう動員するかが課題だ。

また、このチラシだとキラキラが先に見えてきて、「寝かしつけ」「パパカUP」というところがずっと入ってこないで、何をやるのが最初に入ってくるよう、字を大きくしたほうがよい。

(指田委員) カウンセリング講座や、相談に携わる方のための講座の参加は多かったが、

それ以外は少なく残念だ。

男性の生き方講座（子育て期）の2回目のベビーダンスは具体的に男女共同参画のどういう内容を盛り込んだのか。感想には「楽しかった」「かわいかった」などとあるが、ここにジェンダーの視点があったのか。「やっぱり男も育児って大事だよ」とか「親としてやらなければいけないと気付かされた」といった部分がないのが残念だが、どんな構成だったのか。

(新井補佐) 講師の方から男女共同参画について前半にお話をいただいた。お子さんが一緒にいながらのお話で、その後ダンスだったので、印象がダンスしかなかったのかもしれない。

(指田委員) ダンスをやるとスパーンと抜けるので、話とダンスを逆にするとか、担当職員が最初と最後にそういう話をしないと、「楽しかった」「寝てくれてよかった」で終わってしまう。それであれば公民館でやればいい。アルザのパパ講座は、男女共同参画が核となる部分で、1回目と3回目は入っていると思うが、お楽しみの部分でどう気づかせるかが腕の見せ所だと思う。

カウンセリング講座や相談に携わるための講座は、人気があり定員を超えているので有料にしたらどうか。全国に講師として行くと、財政難もあり、ワンコインくらいの有料でやっているところも最近多い。有料にすると休まないの、パパ向けや再就職など定員割れしているところは危険だが、毎回定員を1.5倍位超える講座は有料化に踏み切ってもよいのではないかな。

受講者は初めての方を優先しているのか。

(大塚職員) カウンセリング講座は抽選で決定した。昨年度までは初めての方を対象としていたが、今年度内容が少し変わったので再受講もよしとした。

(指田委員) 基本的に申し込みが多い場合、こちらがとりたい人をとったほうがよい。初めて来る人、悩んでいる人などアルザとして来てほしい人をしっかりターゲットにすると、受講意欲の高い人に来てもらえ、より学習効果は高まり、欠席も少なくなる。連続講座だとだんだん出席者が減っていくが、それをなだらかにする傾向があるので次回盛り込んでもらえるとよい。

(福田委員) DV加害者更生プログラムの講座を受講したがとても良かった。講師の選択も良く、講師がいいといい講座ができると思った。

(西條委員) DV加害者更生プログラムは、新潟では実際にやっているのか。

(新井補佐) 新潟では今のところやっていないと思う。

(西條委員) DV加害者の夫が自殺し、自死の場合、遺族は病死などに比べ自責の念を強く持つ特徴があり、妻はDV被害者なのに加害者のような気持ちを持つという事例があった。男性相談をもっと広めてほしい。

(指田委員) 女性議員の講座のチラシの吹き出しの「10.1%」は数字が多い感じがするので、「10%」や「10人に1人」に、「22.6%」は「20%くらい」などでいい。少数点以下はいらない。こんなに少ないというアピールができればよい。

(2) 男女共同参画市民団体協働事業の実施状況について

(事務局) 実施状況の報告

4 その他

(1) アルザフォーラム2019について

- (事務局) 開催状況説明
- (西條委員) 9日はどういった方がお見えだったか。
- (井上副主査) 50代、60代、70代の方が多かった。ご夫婦での参加はちらほらあった。
- (西條委員) 去年の犬山さんの基調講演は、若いご夫婦が多かった。ぜひ夫婦で手をつなぎながら来るようなフォーラムになるといい。
- (新井補佐) 昨年度の実行委員は小さいお子さんがいる方々で、同じような世代を対象に企画した。今年度もアンケートを見ると若い方もいらっしまった。
- (稲垣課長) 集客面で言うと、今年度の小島さんは200人の参加で、昨年度は150人だった。集客もしつつ、もう少し年齢層の若い方をお呼びするにはどんな講師がいいのか、今後のテーマである。
- (齋木委員) 集客を考えたときに、参加しやすい年代は子育てが一区切りついたところだと思う。若い人にも来てもらいたいが、企画の立場では参加しやすい年代にとって著名な方に決めるということになる。
- (福田委員) 小島さんはNHKでご自分は発達障がいだという話をずっとしている。ジェンダーで社会を考える講座で発達障がいを取り上げるのでいろいろ調べているが、そういった話はあったか。
- (稲垣課長) 講演の本題ではなかったが、質疑の中で、質問者の男性から、自分も発達障がいなので、今度そういうテーマでの講演を新潟でお願いしたいという話があった。小島さんも機会があればぜひとのことだった。

(2) その他

- (事務局) 今年度の第1回運営委員会の新潟市男女共同参画市民団体協働事業の実施団体決定の審査で、団体の構成員にかかる費用の割合が高い団体があるとの指摘があった。市としてもできるだけ事業の内容そのものに委託料を使っていたきたく、来年度の募集から団体の構成員にかかる人件費及び旅費の合計が、委託料の50%を越えないという上限を設けたいと考えている。
- (齋藤委員) 講師の人件費も50%以内ということか。
- (事務局) スタッフの人件費や旅費を50%以内ということで、講師の謝礼に上限は設けていない。他にご意見がないようなら、来年度の募集から実施したい。
そのほか、全体をとおしてご意見等お聞かせ願いたい。
- (永田委員) 講座の参加者数のうちリピーターの方がかなりいて、うち女性が多いとなると非常にコアな方が多いのだと思う。女性へのアプローチはもちろん大事だが、男性の理解を求め、わかり合うことが必要だと思うので、男性の集客に努めてもらいたい。
また、コアの方もいいのだが、周りの方の集客、認知度を上げることが社会の男女共同参画を推進する上で大事なので、検討してもらえらるともっといい活動ができると思う。
- (事務局) 次回の運営委員会は来年の3月頃の開催を予定しているが、あらためて各委員の日程を調整のうえ案内する。